

公開セミナー
宇大生とNPOが考えた
宇都宮の
持続可能なエネルギー

～驚きの再生可能エネルギーのポテンシャル

入場
無料
先着50名

2022年4月28日(木) 12:40-14:00
宇都宮大学峰キャンパス 5B21教室
開場: 12:25

要事前
申込

挨拶: 宇都宮大学国際学部学部長 中村真
趣旨説明: 宇都宮大学国際学部教授 高橋若菜
発表: NPO法人うつのみや環境行動フォーラム
再生可能エネルギー部会 今出善久・三宅徹治
宇都宮大学国際学部高橋研究室ゼミの学生たち
コメント: 宇都宮大学地域デザイン科学部教授 横尾昇剛 (予定)
質疑応答

開催趣旨

気候危機を目前に、脱炭素社会を達成させることは、喫緊の課題です。宇都宮市は、2030年度までに温室効果ガスを2013年度比で27%削減するという目標を掲げ、2050年までにカーボンニュートラルを達成することを宣言しています。目標達成の鍵となるのが、持続可能なエネルギーです。そこで、宇都宮大学国際学部の学生たちとNPO法人うつのみや環境行動フォーラム再生可能エネルギー部会は、われわれの住む宇都宮市の再エネの現状やそのポテンシャル(可能性)を調べました。当セミナーでは、現時点でわかってきたことを、みなさんと共有したいと思います。

当セミナーが、持続可能なエネルギーへの転換をより身近な問題として共に考えていくきっかけとなれば幸いです。みなさまのお越しを楽しみにお待ちしております。

主催 宇都宮大学国際学部 環境と国際協力(高橋若菜)研究室
NPO法人 うつのみや環境行動フォーラム 再生可能エネルギー部会
共催 宇都宮大学国際学部附属 多文化公共圏センター



UU3Sプロジェクト

お申し込みは、以下のURLもしくはQR
コードからお願いします。
<https://jp.surveymonkey.com/r/266Z9N3>
お越しくださった方には、当日会場にて、
報告書冊子を無料でお渡しします。



問合せ先
宇都宮大学国際学部附属
多文化公共圏センター
電話 028-649-5228 (平日10-16時)
E-mail:takahashioffice.uu@gmail.com

開催日時 7月11日 (月)

オンライン開催 18:00~19:00

参加費: 無料、公開報告会

対象: 高校生、大学生 (事前にご登録ください)

司会: 伊藤綾音・佐藤野乃果
(宇都宮大学国際学部1年)

学生報告会の概要

本報告会では、国際機関やNGOでのインターンを経験された3人の宇大生から、インターン応募までの経緯や実際の活動、現在とこれからのキャリア形成についてご報告いただきます。

国際協力機関でのインターンは、企業でのインターンとは異なる点も多く、国際協力で少しでも興味や関心がある高校生や大学生の皆さん、ぜひご参加ください。



福原 玲於茄 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科, 外務省専門調査員アフリカ連合日本政府代表部)

インターン先: 国連難民高等弁務官事務所 駐日事務所、赤十字国際委員会 駐日代表部

はじめまして。現在、エチオピアのアフリカ連合日本政府代表部に、専門調査員として勤務しています。福原です。アフリカ連合って何?日本はどんなことをしているの?アフリカの生活ってどんな感じ?等々、初めてアフリカを経験している私から見えるアフリカ生活・社会・文化等について、これまでの学部や大学院での取り組みとともにお伝えしたいと思います。エチオピアでの趣味は、ズンバ教室に通うこととカフェに行くことです。

3名のインターンへの応募と業務に関するお話が聞ける貴重な機会!!

報告者紹介

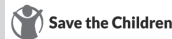
インターンを通して世界にはばたけ

~The experience of international cooperation will contribute to your carriers~

海外と関わる仕事に携わってみたい…けど、具体的に何から始めたらいいのかわからないそんな君へ!

菊地 翔 (宇都宮大学国際学部国際学科 4年)

インターン先: 公益社団法人
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



国際協力を行う団体には国内・国外問わずさまざまな団体がありますが、セーブ・ザ・チルドレンは、名前の通り子どもに焦点を当てた支援を行う団体です。皆さんの中には、大学生生活を通じて、また将来のキャリアとして国際協力で携わりたいけど、何をすればいいのかわからないという方もいると思います。そんな方々に、私のインターンとしての経験や応募に至るまでの取り組みを1つの例としてご紹介できればと思っています。



新井 廉 (宇都宮大学国際学部国際学科 4年)

インターン先:
アフリカ平和再建委員会 (ARC)

私がインターンをしていたARCはルワンダを中心に活動する国際NGO団体でした。業務としては、イベントの運営や広報などをインターン生でありながらも第一線で活動させて頂くことができました。それらの経験から、NGO団体を運営するにあたって重要な多くのことを学ぶことができました。今回のシンポジウムではインターン先での経験に加えて、インターン採用へのプロセスも含めてお話しさせて頂ければと思います。国際協力で興味・関心のある方はぜひご参加ください。

ご登録フォーム

<https://forms.gle/PFGQpPn6A89>

rjLsKA

Zoomの情報を当日までにメールいたします。

代表教員: 藤井広重 (fujihit@joc.utsunomiya-u.ac.jp)

<https://www.fujihit.com/>

*本イベントは、2022年度宇都宮大学イベント等支援費からご支援を頂きました。



共催: 宇都宮大学国際学部付属多文化公共圏センター国際平和と人権・人道法研究会
学生サークルUIPJ、国際学部藤井研究室

2022年度 宇都宮大学 多文化公共圏フォーラム 第4回

主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター福島原発震災に関する研究フォーラム



基盤教育科目「3.11と学問の不確かさ」公開授業

「当事者として 『科学的』に向き合うこと」

講師の島明美さんは、東電福島第一原発事故の深刻な影響を受けた伊達市の住民として、同市の現状がわかる資料の情報開示請求を100回以上行い、約3万枚の資料を入手して分析し、問題提起を続けてきました。2022年4月に市議会議員となった島さんに、原発事故と向き合ってきたご経験についてお話しいただきます。

日時：2022年7月27日（水曜日）16：00-17：30

講師：島明美（しまあけみ）伊達市議会議員

伊達市議会議員。福島県会津美里町生れ。二児の母。個人被ばく線量データ利用と市民生活を考える協議会代表。市民の被ばくデータをもとに書かれた「宮崎・早野論文」を物理学者の黒川眞一氏と共に、当事者として情報公開制度を活用し検証し、論文は撤回された。日隅一雄・情報流通促進基金奨励賞受賞。高木基金助成金を受ける。

開催方法：Zoomを使ってオンラインで行います（参加費無料・15時50分から入室可能）

参加方法：履修生以外で聴講を希望される方は、7月25日月曜日までに下記のGoogleフォームに必要事項を入力してください。参加するために必要な情報をお知らせします。申込先：<https://forms.gle/tPcSgwAKta6dPCpm8>
問い合わせ先：uuforumsymposium@gmail.com 国際学部 清水研究室宛て

宇大生
による

2022年度 SDGs映画上映会 第1弾



日時 2022年

7月24日(日)

13:00-16:00

@ 宇都宮大学

5B12教室

『グレタひとりぼっちの挑戦』

ヒーローにならなくてもいい。
一緒に声を上げる仲間になろう。

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室 UU3Sプロジェクト
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

協力：NPO法人うつのみや環境行動フォーラム

後援：NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム

備考：UU3Sプロジェクトは、栃木県大学地域連携事業の支援を受けています。



「グレタ ひとりぼっちの挑戦」

先着
100名

参加費
無料!

※基本は宇都宮大学での対面開催となりますが、ご事情により、オンライン（Zoom）での配信についても相談に応じます。

※問い合わせ先
〒321-8505 宇都宮市峰町
350 宇都宮大学国際学部
附属多文化公共圏センター/
uu3sプロジェクト（高橋若菜
研究室）
uu.movieteam@gmail.com
Tel:028-649-5196
（平日9:00～16:00）
不在時折り返します

グレタはなぜ怒っているのか？
「心配はிரらない、対策は取られている」
でもCO2排出量は増え続けている。
「私たちは決して許しません。若者は裏切りに気づき始めています。」

迫り来る6度目の大量絶滅の危機を前に、
たった一人で学校ストライキを始めたグレタ。
地球を守るために立ち上がった彼女が世界に伝えたいこととは。

気温の上昇、海の酸性化、森林破壊、海面上昇。
科学者は言う、「もう後戻りはできない場所まで来ている。」
差し掛かる転換点、私たちは何ができるだろうか。

日時 7月24日(日) 13:00～16:00

会場 宇都宮大学 峰キャンパス5号館 5B12教室

第1部（100分）映画鑑賞

10分間休憩

第2部（60分）ワークショップ

学生による発表/ディスカッション

※終了後希望者は座談会（30分）にも歓迎します。



<申し込み方法> 〆切：7月20日(水)

右記QRコードまたは下記URLより
事前に申し込みを行い、事前アン
ケートにご回答ください。

オンライン参加の場合、一週間以内
に当日のZOOMのURLをメールに
てお送りします。

URL: <https://forms.gle/gQAmyovGtpqma8ct6>



2022年度 宇都宮大学 多文化公共圏フォーラム 第6～16回 国際学部主催オンライン国際交流2022/チェコ共和国

チェコ在住の尾形祐美氏、パヴェル・ヤンシュタ氏を講師に迎え、日本語（尾形氏）と英語（ヤンシュタ氏）で、講義とワークショップを行います。（質疑応答は日本語可）各回とも参加費無料、単発受講可です。国際キャリア教育科目「多文化公共圏実践演習（グローバル）」「多文化公共圏実践演習（グローバル）」の公開授業です。



講師プロフィール

尾形祐美：絵とことばの作家。チェコでチェコ人の旬会を主宰。

チェコ語を専攻、チェコの映画を研究したあと、銅版画を始める。東京、長野、プラハ、山梨、チェスケーブデヨヴィツェなどで絵とことばの個展を開催。絵本など、絵とことばの作家として活動。チェコ人の夫とともに、チェコ人の俳句の会「月見草」（PUPALKA プパルカ）を主催し、チェコの小学生から大人までを対象に、俳句のワークショップを行う。

ホームページ <http://www.hiromi.cz>

パヴェル・ヤンシュタ：旅行家、地方議員、市民文化オーガナイザー

プラハ、ドレスデン、ミュンヘンで政治学、国際関係学を学ぶ。学生時代から長年、修辞学と創作文のクラスに通う。2010年から2014年まで人口7千人の町、ヴォドニャニで副町長を務める。現在、町の協議会の会員として12年目を迎える。ヴォドニャニにて定期的にペチャクチャナイトを主催。（www.pechakucha.com/cities/vodnany）旅行家として世界各地を徒歩やヒッチハイクで旅行、巡礼した。その体験をもとにした展示、講演会を日本やチェコで開催。芭蕉「おくのほそ道」を日本巡礼中に読み、俳句を始める。



尾形氏&ヤンシュタ氏



ヴォドニャニの紋章

<問い合わせ・申し込み>

国際学部附属多文化公共圏センター

028-649-5228（平日 10-16時）

tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



申し込みは左記のQRコードまたは以下のリンクからお願いいたします。

<https://onl.tw/TW3dNj8>

尾形祐美「南チェコでことばについて考える」		
10月14日 (第6回)	16:00～17:30	チェコと日本で季節感について俳句を通して気づくこと ・次回のゲスト、チェコ俳人の俳句を紹介、質問募集
10月21日 (第7回)	16:00～17:30	チェコの句会月見草からチェコ俳人のゲストを招いて対話 日本の学生から質問、チェコ俳人から日本人学生への質問など (英語、日本語も可)
10月28日 (第8回)	16:00～17:30	「いつもそこにあるもの」について、作品作りにおいて
1月27日 (第16回)	14:20～17:30	句会月見草：チェコの俳人との合同句会

パベル・ヤンシュタ「Living (in) World」(生き生きとした世界／世界に生きる)		
11月25日 (第9回)	16:00～17:30	Living (in) Town 街で生きること／ 生き生きとした街について考え、具体的に何から始めたか
12月2日 (第10回)	16:00～17:30	Map of emotions of the town 「街の場所によって感じる感情を示した地図」を子供から大人まで市民全体を巻き込んで、どのようにして作成したか
12月9日 (第11回)	16:00～17:30	Glocal Architecture グローカルな建築：地元の人でも外からの人も巻き込んだ街の改善を目指した建築プロジェクトについて
12月16日 (第12回)	16:00～17:30	グローカルな市民参画：街に影響を及ぼす工業施設の建築などに対する市民投票の例など、どのように市民の声を反映していくか
12月23日 (第13回)	16:00～17:30	Local changes with global impact ローカルな変化が国際的なインパクトに：地元市民のために進めたプロジェクトが、長い目で見ると国際的に評価されたり、影響を与える例
1月6日 (第14回)	16:00～17:30	Map of emotions of Utsunomiya University 共同で宇都宮大学の「Map of emotions」を作り、その結果について自由に話し合う
1月20日 (第15回)	16:00～17:30	Living (in) University 宇都宮大学の「Map of emotions」を元に、大学構内の改善点について自由に話し合い、数名のグループで実際に仮想プロジェクトを時間内に組み立ててみる



フォーラム企画担当

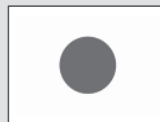
松井貴子（国際学部教授／多文化公共圏センター員）
「多文化公共圏実践演習（グローバル／グローカル）」担当

本フォーラムは、国際学部ミッション達成支援経費の助成を受けて開催されます。

ハイブリッド型 国際ワークショップ *Hybrid International Workshop*



カーボンニュートラルな宇都宮市の未来
-スウェーデンの先進都市報告から考える-



*A Carbon-Neutral Future for Utsunomiya City:
Considering from a Swedish Model City Report*

2022年10月19日(水)
12:30-14:00
峰キャンパス5号館
ラーニングコモンズ2
オンライン (ZOOM)
同時配信



言語：日本語・英語（同時通訳付）



事前申込要(10/16まで) [<https://forms.gle/5bqgBHYW3VN6GjZi9>]

主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター UU3Sプロジェクト（高橋若菜研究室）
ルンド大学国際産業環境経済研究所 SSCプロジェクト（IIIIEE, Lund University, Sweden）
協力：宇都宮市環境政策課 NPO法人うつのみや環境行動フォーラム

開催の趣旨

深刻な気候危機を目前に、宇都宮市は、2030年までに温室効果ガス半減、2050年カーボンニュートラル実現という目標を掲げました。そのためには、ライフスタイルや産業・社会構造を抜本的に見直す必要があります。しかしこれは決して容易なことではありません。

世界の多くの都市も、カーボンニュートラルに向けて苦心しています。一方、持続可能でイノベティブな方法で、カーボンニュートラルに向けて着実に変革を遂げている地域もあります。スウェーデンのルンド市やマルメ市は、そうした先進都市の一環です。幅広い社会共創をもとに、2030年のカーボンニュートラル達成をめざして着実に前進しています。

本国際ワークショップでは、宇都宮市の政策担当者が市のカーボンニュートラル戦略や課題について報告します。続いて、スウェーデンからのオンライン中継で、ルンド大学の大学院生グループがルンド市やマルメ市の先駆的取組を報告します。

パネルディスカッションでは、このようなモデル都市の取組みを参照として、宇都宮市は、豊かな自然や独自性を活かしながら、どのようにカーボンニュートラルへの持続可能な移行戦略を練っているのかを、宇都宮市、NGO、宇都宮大学、ルンド大学のチームとともに考えます。

プログラム

12:15 開場(教室、ZOOM)

12:30 開会 挨拶 松金公正(宇都宮大学 副学長)

趣旨説明: 高橋若菜(宇都宮大学国際学部教授)

12:40 基調講演 「宇都宮市のカーボンニュートラル戦略と課題」

武田勝行(宇都宮市環境政策課課長)

13:10 スウェーデンの先進事例報告(ルンド大学IIIIEE SSCプロジェクト大学院生チーム)

13:25 パネルディスカッション

13:55 閉会挨拶 バーナデット・キッシュ(ルンド大学IIIIEE SSCプロジェクトコーディネーター)

14:00 閉会



基調講演
パネリスト
武田勝行
宇都宮市
環境政策課
課長



スウェーデン報
告・パネリス
ト, Azusa
Lindwall,
Adriana
Fernández,
Silvia Kim and
Maëlle Soulis
ルンド大学IIIIEE



パネリスト
遠藤孝一
(公財)日本
野鳥の会理
事長、NPO
法人オオタ
カ保護基金
代表



パネリスト
UU3S
Project
高橋この葉
藤田雅
山崎彩貴
宇都宮大学
国際学部
3年



開会挨拶
松金公正
宇都宮大学
副学長
(グローバ
ル戦略担
当)



閉会挨拶
Bernadett
Kiss, Dr.
ルンド大学
IIIIEE講師・
コーディ
ネーター



趣旨説明:
パネル司会
高橋若菜
宇都宮大学
国際学部教
授/多文化
公共圏セン
ター長

問合せ: 〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部附属 多文化公共圏センター
メール: takahashioffice.uu@gmail.com (高橋研究室) 電話番号 028-649-5196 (平日10-16時)
主催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター UU3Sプロジェクト (高橋若菜研究室)
ルンド大学国際産業環境経済研究所 SSC (Sustainability Solution in Context)プロジェクト
協力: 宇都宮市環境政策課 (宇都宮市と宇都宮大学の「相互有効協力協定書」に基づくものです。)
NPO法人うつのみや環境行動フォーラム
後援: 宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム
備考: UU3Sプロジェクトは、栃木県大学地域連携活動支援事業による助成を受けています。

宇大生
による

2022年度 SDGs映画上映会 第2弾

監督：佐竹敦子&デビーリー・コーヘン 撮影・編集：佐竹敦子 アニメーション：ダニエル・ラモス/デビーリー・コーヘン
出演：ニューヨーク市ブルックリンPS15小学校の皆さん チェルシー・ロックマン ジュディイス・エンク マーカス・エリックセン

観客賞
ドキュメンタリー部門
プロビデンス
子供映画祭

最優秀審査員賞
グリーンポイント映画祭

最優秀
ドキュメンタリー
Amateur Category
RAWSCIENCE映画祭

最優秀
ソリューション賞
シネマヴェルデ
環境映画祭

他4つの受賞と40の映画祭に入選

日本語吹替版

プラスチック汚染問題にニューヨークの小学生が立ち上がる！

マイクロプラスチック ストーリー

ぼくらが作る2050年

<https://www.microplasticstory.org/>



このメッセージを日本中に届けたい！
～プラスチック削減アンバサダーの子どもたちと多彩な分野の大人たちが吹替えを熟演！～

子役：平井美佳、忌部あさひ 他、全国578人の応募から選ばれた45名のプラスチック削減アンバサダーたち
応援出演：日比野克彦（現代美術家/東京藝術大学 美術学部長） 桂川孝裕（亀岡市長） 福井英昭（亀岡市議会議長）
野田はるみ（神奈川県議員） たかまつなな（笑下村塾/時事YouTuber） 露木志奈（環境活動家） 他

日本語吹替版総合監督 撮影・編集：佐竹敦子 制作：カフェテリア・カルチャー
日本語吹替版共同制作：一般社団法人タラ オセアン ジャパン アニエスページャパン株式会社 特定非営利活動法人 海の自然史研究所

『マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年』の日本語吹替版制作は、
映画に感銘を受けて下さった、タラ オセアン ジャパンとアニエスページャパンにご支援をいたしており、今後コラボレーションさせていただく予定です。




協賛：特定非営利活動法人プロジェクト保津川
協力：京都府亀岡市 香川県三豊市 亀岡市教育委員会 亀岡市議会 京都先端科学大学 東京藝術大学 かめおか霞の芸術実業委員会 株式会社大川印刷
東放学園音楽専門学校 株式会社ロボット 株式会社SONO PRONTO 亀岡市立つつじヶ丘小学校 亀岡市立詳細小学校 Sunny's PBL English 株式会社スコープ

日時 2022年

11月26日(土)

13:00-16:00

@ 宇都宮大学

5B12教室

『マイクロプラスチック・ストーリー』
ぼくらが作る2050年』
未来をプラスチックで汚したくない！

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室 UU3Sプロジェクト
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
協力：NPO法人うつのみや環境行動フォーラム
後援：NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム
備考：UU3Sプロジェクトは、栃木県大学地域連携事業の支援を受けています。



UU3Sプロジェクト SDGs映画上映会 第2弾
**「マイクロプラスチック・ストーリー
 ぼくらが作る2050年」**

**先着
100名**

**参加費
無料！**

※問い合わせ先
 〒321-8505 宇都宮市峰町
 350 宇都宮大学国際学部
 附属多文化公共圏センター
 / uu3sプロジェクト（高橋
 若菜研究室）
 uu.movieteam@gmail.com
 Tel:028-649-5196
 （平日10：00～16：00）
 不在時折り返します



プラスチックは捨ててもなくなりません。
 目に見えない細かい「マイクロプラスチック」になって
 世界中に広がり、環境を汚しています。

問題に立ち向かったのはニューヨークの子どもたち。
 学校で、町で、海で、プラスチック削減に向けてのアクションを起こしました。

「私たちの海を守るために。そして、世界の人々の暮らしを守るために。」
 私たちにもできることを探してみませんか？

日時 11月26日(土) 13:00～16:00
 会場 宇都宮大学 峰キャンパス5号館 5B12教室

第1部（80分）映画鑑賞

15分間休憩（メイキング映像上映）

第2部（60分）ワークショップ

学生による発表/ディスカッション

ワークショップでは、

- ・留学中の学生に聞いた海外の事例
- ・市民団体や市、大学が協力して行っている、宇都宮のプラスチック削減に向けた取り組み「リフィルうつのみや」について紹介します！



リフィル
うつのみやHP

※お時間があれば、終了後のお話し会（30分）にもぜひご参加ください！

<申し込み方法> 〆切：11月23日(水)

右記QRコードまたは下記URLより
 事前に申し込みを行い、
 事前アンケートにご回答ください。

URL: <https://forms.gle/7EGReiMfc38He2z88>



「自主夜間中学について考える連続研修会」

第 1 回開催案内

「札幌、千葉、奈良からの実践報告と座談会」

公立夜間中学の未設置地域を中心に自主夜間中学は多様な学習者（義務教育未修了者、形式卒業生、学齢超過の外国人、学齢の児童生徒等）に貴重な学びの場を提供しています。しかし、自主夜間中学に関する研究は極めて少なく、また、自主夜間中学関係者間の情報・意見交換の機会も限られています。さらに、社会的認知度がまだまだ低い中で、自主夜間中学の意義や課題を広く社会に発信していく必要があります。このため、自主夜間中学関係者による実践報告と問題提起を軸とする研修会を定期的開催していくこととしました。多様な自主夜間中学のことをともに学びあっていきましょう！

記念すべき第 1 回は、札幌、千葉、奈良からゲストを招いて開催します。

共催：「宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会」、「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」、田巻松雄文部科学省科学研究費研究グループ「外国人生徒の学びの場」

日時：2022年12月3日（土）17時～19時30分

会場：オンライン（ズーム・ミーティング）

内容：「実践報告と座談会」

工藤慶一（札幌遠友塾自主夜間中学元代表・北海道に夜間中学をつくる会共同代表）

竹内悦子（ちば夜間中学をつくる会代表）

山本直子（西和自主夜間中学 事務局長）

定員：300名（先着順） 参加費無料

参加申込：下の URL または QR コードから申し込んでください。

<https://us02web.zoom.us/join/register/tZApf-6rrD4uHtNhAA-Cw8umCTaMgCxJS7Yc>



問い合わせ先
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
電話 028-649-5228（平日10-16時）E-mail: tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 共催
日光市観光経済部観光課・日光市国際交流協会

国際交流都市日光の再発見
**日光の文化的価値を活かした
観光地づくりを留学生と考える
報告会**

日時 **2022年12月10日 (土)**
10:00-12:00

場所 **5号館2階ラーニングコモンズ2**

プログラム

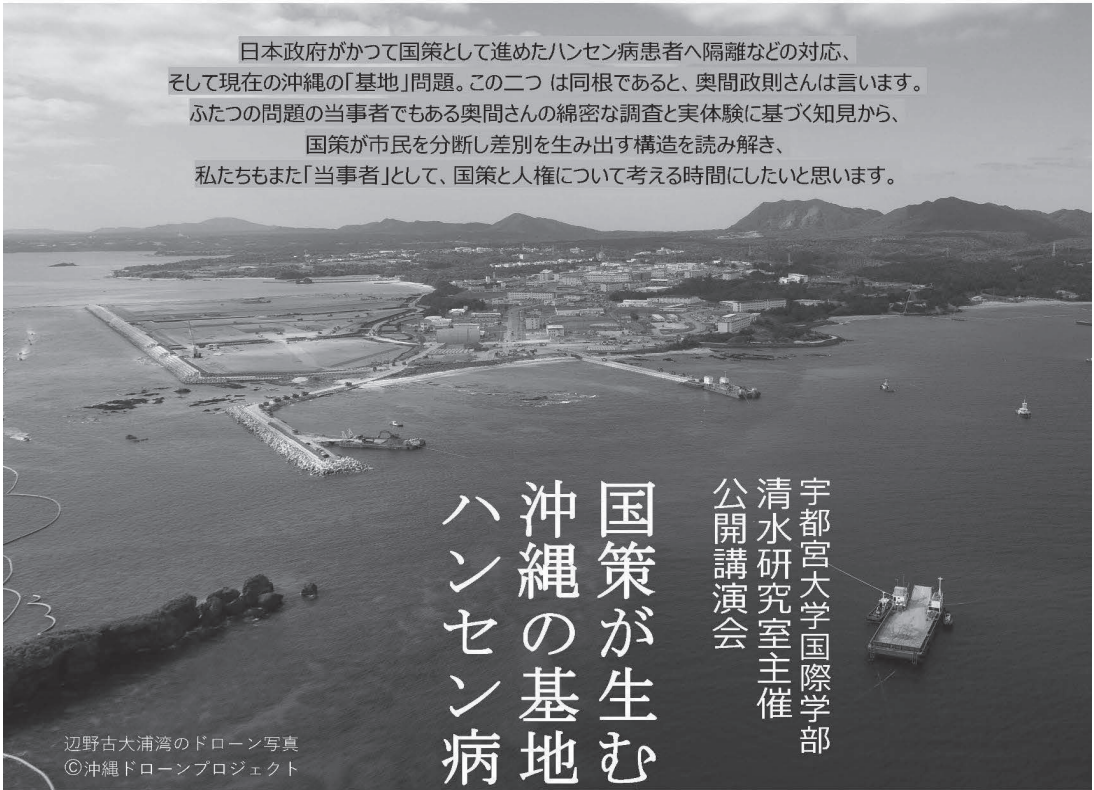
- 10:00~10:05 開会あいさつ (国際学部長)
- 10:05~10:10 日光市からのあいさつ (日光市観光経済部)
- 10:10~10:20 趣旨説明
- 10:20~11:00 基調講演 (日光の文化的価値を深堀する) (趙敏様)
- 11:00~11:45 留学生によるプレゼンテーション
- 11:45~11:55 プレゼンテーションへのコメント
- 11:55~12:00 閉会あいさつ (多文化公共圏センター長)

お問い合わせ・お申し込みは

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
Tel. 028-649-5228 (平日9:00~16:00)
URL <http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/>



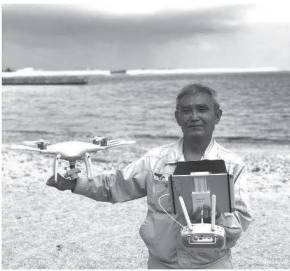
日本政府がかつて国策として進めたハンセン病患者へ隔離などの対応、
そして現在の沖縄の「基地」問題。この二つは同根であると、奥間政則さんは言います。
ふたつの問題の当事者でもある奥間さんの綿密な調査と実体験に基づく知見から、
国策が市民を分断し差別を生み出す構造を読み解き、
私たちもまた「当事者」として、国策と人権について考える時間になりたいと思います。



辺野古大浦湾のドローン写真
©沖縄ドローンプロジェクト

宇都宮大学国際学部
清水研究室主催
公開講演会

国策が生む差別を考える 沖縄の基地問題と ハンセン病問題の当事者として



講師 奥間政則

おくまさのり ■奄美大島で元ハンセン病患者の両親のもとに生まれる。沖縄県国頭郡大宜味村在住。元土木技術者であり、その知見を生かして辺野古の調査団や共同で立ち上げた「沖縄ドローンプロジェクト」などで活動。新聞に記事が掲載されたことがきっかけで、2017年からは沖縄の基地問題とハンセン病問題の2つの国策の差別をテーマに各地で講演活動も行っている。

2022年
12月16日(金)

16時～18時

■開催方法と定員

対面参加：先着100名
zoomでの参加も可能です
いずれも無料です

■対面参加の会場

宇都宮大学峰キャンパス
5号館B棟1階 5B11教室

■参加申し込み

学外の方は対面・zoom

ともにQRコードまたは

URLから12/15までに

お申込み下さい。

宇都宮大学関係者で対面参加を希望される方は、申し込みは不要です。

<https://forms.gle/RzJ5q3zcTf8v5pbm8>



問い合わせ先 ■清水研究室
uuforumsymposium(a)gmail.com
(a)を@にかえてお送りください

2022年度宇都宮大学多文化公共圏フォーラム第22回

公開セミナー「語り継ぐ足尾Ⅱ」 ～足尾にあった松木村のことを忘れないでほしい～

日時：2023年1月12日(木) 13:00～15:00
場所：宇都宮大学国際学部5号館B棟2階ラーニングcommons3(ハイブリッド)

明治時代、足尾銅山は近代技術の投入により、銅採掘や製錬の規模を急速に拡大させました。銅山の発展や繁栄は、一方で深刻な環境破壊や鉱害被害をもたらしました。足尾町北部にあった松木村は、煙害が集中し大火に遭い、1902年に廃村となりました。今では、松木村の生活の様子や離散した村民の想いを知ることが困難になっています。本セミナーでは、松木村村民の子孫である星野茂氏が代々伝わる家財や逸話を紹介し、書物だけでは分からない松木村を語り継ぎます。私たちは歴史から何を学べるのか、将来に何を伝えていくべきなのか、ともに考えましょう。



【松木村の語り】

星野 茂
日光市在住。曾祖父までの先祖が松木村に住んでいた。



【コメンテーター】

赤上 剛
田中正造・足尾銅山鉱毒事件研究者
元渡良瀬川研究会顧問



【解説】

匂坂 宏枝
宇都宮大学国際学研究科博士後期課程在学、多文化公共圏センター研究員



【コメンテーター】

加藤 清次
元足尾高校教諭
現栃木県立高校非常勤講師



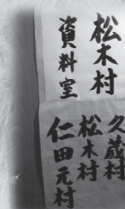
【司会】

高橋 若菜
宇都宮大学国際学部教授、多文化公共圏センター長、福島原発震災に関する研究フォーラム共同世話役



【コメンテーター】

清水 奈名子
宇都宮大学国際学部教授、福島原発震災に関する研究フォーラム共同世話役



星野茂氏宅に設けられている資料室

会場：宇都宮大学国際学部5号館B棟2階ラーニングcommons3
ZOOMミーティングルーム

参加費：無料

ZOOM参加申込：右のQRコードもしくは以下のアドレスよりお申込み下さい。
(申込時に氏名・メールアドレスをご入力いただくとZOOMのURLをご案内します。)
<https://us02web.zoom.us/join/register/tZMoc-GurjksH9dEnXkIjuSfdqt4s8OkLq9h>



企画運営：宇都宮大学国際学部環境と国際協力(高橋若菜)研究室・福島原発震災に関する研究フォーラム共同世話役
共 催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
問い合わせ：〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
メール takahashioffice.uu@gmail.com (高橋研究室)
電話番号 028-649-5196 (平日10-16時)

2022年度 宇都宮大学 多文化公共圏フォーラム 第23回
途上国経済発展論 公開講座

スリランカにおけるサルボダヤ運動

～コミュニティがいかに力をつけていくか～

(社会的起業／起業開発／マイクロファイナンス)

*講演は英語で行われ、スライドには日本語訳が付きます。

開催日：木曜日

2023年1月12日

時間：14:20～15:50

オンライン：Zoom

オンライン参加希望者は、講義前までに以下のリンクからご登録をお願いします。

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZMrce6spj0uGNz3I4X0GC8KwBQATT-hHnbM>

会場となる宇大・峰キャンパス 4A31 教室は、席に限りがあるため、宇大の授業履修生または招待学生に限定させていただきます。ご了承ください。

プロジェクト：グローバル・サウスとの共創

講演者



P. D. P. サンジーワ

MBA, M.econ, B. Sc.(sp) hons

宇都宮大学博士課程

経歴

スリランカ出身

サルボダヤ開発金融機構元マイクロファイナンス

ス部長／元企画責任者

ケラニヤ大学客員教授

フリーコンサルタント

司会者

阪本 公美子

(宇都宮大学国際学部教授)

コメンテーター

重田 康博

(宇都宮大学国際学部客員教授)

お問い合わせ先

問い合わせ先

宇都宮大学国際学部附属

多文化公共圏センター

電話 028-649-5228 (平日 10-16時)

E-mail: tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



Intellectualizing Crisis and Categorizing the Self

Buskers in Honedae playground
copyright get lost magazine

IN BETWEEN BECOMING 'ARTISTS' AND 'LABORERS' IN SEOUL

Hongdae, located in the western part of Seoul, became well-known as a place of subculture in the 1990s yet it has become an epitome of gentrification. Tracing the self-categorization of cultural workers in Hongdae for two decades, Dr. Cho proposes self-categorization as a site to observe the critical activity of ordinary people, a performative action of creating self-fulfilling prophecies for living in uncertainty.



DR. MIHYE CHO
Assistant Professor
Department of Sociology
SungKongHoe University

Monday, January 16, 2023

10:20~11:50 Japan standard time

*The talk will be in hybrid format.

Registration and online participation:

Please visit QR code or Zoom
link below:



[https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZcquqvz0vEtUV5hBQTDgy8MfOdyKdgUyT](https://us02web.zoom.us/join/https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZcquqvz0vEtUV5hBQTDgy8MfOdyKdgUyT)

In person participation:
Utsunomiya University
4号館B棟 3階 4B33



Organizer: Ilju Kim
iljukimecc.utsunomiya-u.ac.jp



2022年度宇都宮大学多文化公共圏フォーラム第25回



2023年1月21日(土)
13:00-15:30

オンライン配信



お申込はこちらから
URLは下段より



国際オンラインワークショップ (第二弾)
カーボンニュートラルへの
地方戦略を考える
～ エネルギー効率向上の
大きなポテンシャルとは？



マスコット：とちぎカーボンニュートラル実現リーダー「ニュートラクくん」

オンライン申込URL <https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZApceutqjspHNQuAsS2UbCRfEHAn30P1BiP>

開催の趣旨

深刻な気候危機を目前に、近年、国や地方自治体は続々と、2050年カーボンニュートラルに向けて宣言や戦略を打ち立てています。でも、どのような技術や政策でもって達成できるのでしょうか。経済へは、私たちの暮らしへは、どのような影響があるのでしょうか。2030年に早々とカーボンニュートラルを目指す世界の先進事例では、再エネや新技術もさながら、エネルギー効率向上において、画期的な取り組みや改善が進んでいます。前回（2022年10月）の国際WSでは、スウェーデンの共同研究チームは、民生や業務部門等でのエネルギー効率の低さは、日本の盲点だと指摘しました。これらは、暮らしや経済の豊かさをもたらしてくれるはずだと。

これを受けて、今般のワークショップでは、行政、専門家、NPO、学生たちが、ともに多様なエネルギー効率向上のポテンシャルやその魅力、導入の課題を探ります。エネルギー効率向上と一口にいても、省エネ機器からはじまり、断熱、エネルギー効率のよい再エネ、緑化（Nature-based Solutions）など、多様な方法があり、複合的な効果をもたらします。持続可能なカーボンニュートラルの豊かなポテンシャルを、ともに探りませんか。

プログラム

第1部 基調講演 (80分)

- 1 気候危機と世界のカーボンニュートラル動向
- 2 栃木県のカーボンニュートラル・ロードマップ
- 3 栃木県のカーボンニュートラル戦略シナリオ

高橋若菜（宇都宮大学国際学部）
高嶋英機（栃木県環境森林部気候変動対策課）
歌川学（産業総合研究所）

休憩 (10分)

第2部 パネルトーク (60分)

宇都宮大学生グループ（省エネ・断熱、再エネ熱、NBS）
中村瑠美（宇都宮市環境政策課）
中山富貴（宇都宮大学大学院生）

司会：三宅徹治（NPO法人うつつのみや環境行動フォーラム）
今出善久（NPO法人うつつのみや環境行動フォーラム）
Bernadett Kiss（ルンド大学国際産業環境経済研究所）



基調講演1
高橋 若菜
宇都宮大学国際学部教授／多文化公共圏センター長



基調講演2
高嶋 英機
栃木県環境森林部気候変動対策課



基調講演3
歌川 学
産業総合研究所安全科学部門持続可能システム評価研究グループ主任研究員

パネリスト
今出 善久
NPO うつつのみや環境行動フォーラム エネルギー管理士



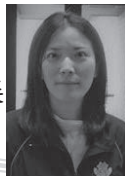
パネルトーク司会
三宅 徹治
NPO うつつのみや環境行動フォーラム顧問



パネリスト：
Bernadett Kiss
ルンド大学 国際産業環境経済研究所IIIEE 講師



パネリスト
中村 瑠美
宇都宮市環境政策課



パネリスト
中山 富貴（宇都宮大学大学院地域創成科学研究科修士課程一年）

宇都宮大学国際学部地球環境政策論受講生・環境と国際協力研究室3・4年生、大学院生・研究生

問合せ：〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
メール：takahashioffice.uu@gmail.com（高橋研究室） 電話番号028-649-5196（平日10-16時）
オンライン申込URL <https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZApceutqispHNQuAsS2UbCRfEHAn30PIBiP>
主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターUU3Sプロジェクト（高橋若菜研究室）
協力：栃木県環境森林部地球環境対策課、宇都宮市環境政策課、NPO法人うつつのみや環境行動フォーラム
ルンド大学国際産業環境経済研究所SSCプロジェクト（IIIEE, Lund University, Sweden）
後援：宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム、とちぎユースサポーターズネットワーク（予定）
備考：UU3Sプロジェクトは、栃木県大学地域連携活動支援事業による助成を受けています。

2022年度宇都宮大学多文化公共圏フォーラム第26回

「奪われたくらし —原発被害の検証と共感共苦(コンパッション)」

出版一周年記念シンポジウム

東京電力福島第一原子力発電所の事故からもうすぐ12年。
揺らぐ被ばく防護基準、住めないふるさと、避難さえも「自己責任」とされる現実。福島原発事故による避難の苦悩や避難先での生活の困難を、新潟県の調査を中心に明らかにする。
誰もがもう一度、「自分ごと」として考えるために——。

2023年

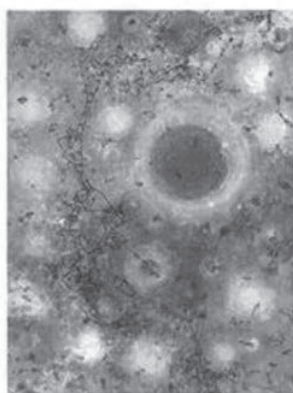
2月23日

(木・祝日)

13:00~16:00

Zoomによる

オンライン開催



奪われたくらし
— 原発被害の検証と共感共苦
コンパッション

高橋若菜 編著

藤川賢 清水奈名子 関礼子 小池山佳

なんでこうなっちゃったかな

—— 当たり前に暮らしたかっただけなのに

揺らぐ被ばく防護基準、住めないふるさと、避難さえも「自己責任」とされる現実。福島原発事故による避難の苦悩や避難先での生活の困難を、新潟県の調査を中心に明らかにする。

誰もがもう一度、「自分ごと」として考えるために——

日本経済評論社 定価(本体3300円+税)

企画運営: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 福島原発震災に関する研究フォーラム

共 催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

宇都宮大・茨城大・福島大のコンソーシアムによる共同開催

問い合わせ: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

メール takahashioffice.uu@gmail.com (高橋研究室)

電話番号 028-649-5196 (平日10-16時)

申込方法: 右のQRコード/以下のURLよりご登録頂くとZOOMリンクが届きます。

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZcqceisrzkjHt3e-7u9Zv1o7PyytUvqzk1U>



『奪われたくらし—原発被害の検証と共感共苦(コンパッション)』日本経済評論社
2022年3月発行 著者紹介

【第一部・第二部講演】

Wakana TAKAHASHI

高橋 若菜

宇都宮大学国際学部教授
多文化公共圏センター長、福
島原発震災に関する研究フォー
ラム共同世話役
著書『越境大気汚染の
比較政治学』『原発避難と
創発的支援』(共著)他



【第一部講演】

Nanako SHIMIZU

清水 奈名子

宇都宮大学国際学部教授、
福島原発震災に関する研究
フォーラム共同世話役
著書『冷戦後の国連安全
保障体制と文民の保護』
『原発事故被害回復の法と
政策』(共著)他



【第一部講演】

Ken FUJIKAWA

藤川 賢

明治学院大学社会学部
社会学科教授
著書『ふくしま復興
農と暮らしの復権』(共著)
『放射能汚染はなぜくりかえされる
のか』(共著)他



【第二部講演】

Reiko SEKI

関 礼子

立教大学社会学部
現代文化学科教授
著書『新潟水俣病をめぐる
制度・表象・地域』
『”生きる”時間の
パラダイム』他



【第二部講演】

Yuka KOIKE

小池 由佳

新潟県立大学人間生活学部
子ども学科教授
著書『お母さんを
支えつづけた
—原発避難と新潟の
地域社会』(共著)他



【コメンテーター】

Yayoi HARAGUCHI

原口 弥生

茨城大学人文社会学
部学部長、教授



【コメンテーター】

Takeru ARAKIDA

荒木田 岳

福島大学人文社会学群
行政政策学類教授

プログラム

第一部 原発被害の検証

- ・奪われた平穏なくらし
- ・放射能リスクをめぐる多重基準と軽視
- ・避難生活の苦渋と自己責任化、二次被害としての差別

高橋若菜 (宇都宮大学)
藤川賢 (明治学院大学)
清水奈名子 (宇都宮大学)

第二部 共感共苦(コンパッション)～社会正義の底上げをめざして

- ・ヒロシマ・ナガサキ・ミナマタからフクシマへ
- ・バルネラビリティへのまなざし
- ・おわりに 生活剥奪のエビデンス

関礼子 (立教大学)
小池由佳 (新潟県立大学)
高橋若菜 (宇都宮大学)

コメンテーター

原口弥生 (茨城大学)、荒木田岳 (福島大学)

第27回多文化
公共圏フォーラム
グローバル展

世界巡礼の旅と宇都
宮大学の心の地図展
パヴェル・ヤンシュタ



2023年 3月

22日 13時～16時
13時～ミニレクチャー

23日 9時～16時
13時～ミニレクチャー

24日 9時～15時
13時～ミニレクチャー

@宇都宮大学グローバルコモンズ ×

2023年3月22日から24日の3日間、2022年度「多文化公共圏実践演習（グローバル）」の授業を担当したパヴェル・ヤンシュタ氏による、学生たちの授業の成果を含む展示が、宇都宮大学グローバルコモンズ+（プラス）／4号館B棟1階にて行われます。

パヴェル氏は、2010年ヴォドニャニ（チェコ共和国）からエルサレムまで、2015年広島から長崎まで、2016年にはドイツからフランスまでを主に徒歩やヒッチハイクで旅しました。

旅中、出会う人々に一つの質問をし、その答えを白紙のハガキに絵や言葉で表現してもらい、帰国後、その人の写真と共に展示をする活動を、日本やチェコで行ってきました。また、故郷ヴォドニャニで副市長を務めた際には、『Map of emotion』という、住民たちが町の様々な場所でどのような感情を抱くか、町の心の地図を作成するメソッドをもとに、様々な町おこしや改善策を行う土台としました。

そして、グローバルの授業内では学生たちと宇都宮大学の『Map of emotion』を作成するワークショップを行いました。

今回の展示は、それらの二つの活動 - 三つの旅で出会った人々の写真とハガキ・宇都宮大学の『Map of emotion』（心の地図）を見ることができます。

展示会場には常にパヴェル氏が在廊します。

来訪者は展示を見るだけでなく、パヴェル氏の旅の質問にハガキで答えたり、宇都宮大学の『Map of emotion』に、大学構内で感じる自分の感情をマッピングすることもできます。

展示期間中は、毎日13時から、パヴェル氏によるミニレクチャーがあり、毎回違った内容の旅のエピソード、展示会場でのワークショップへの詳しい参加方法などを英語で聞くことができます。



パヴェル・ヤンシュタ
ヴォドニャニからエルサレムへ
広島から長崎へ

*パヴェル・ヤンシュタ
旅行家、地方議員、市民文化オーガナイザー
ブラハ、ドレスデン、ミュンヘンで政治学、国際関係学を学ぶ。学生時代から長年、修辞学と創作文のクラスに通う。2010年から2014年まで人口7千人の町、ヴォドニャニで副町長を務る。現在、町の協議会の会員として12年目を迎える。ヴォドニャニにて定期的にペチャクチャナイトを主催。（www.pechakucha.com/cities/vodnany）旅行家として世界各地を徒歩やヒッチハイクで旅行、巡礼した。その体験をもとにした展示、講演会を日本やチェコで開催。芭蕉「おくのほそ道」を日本巡礼中に読み、俳句を始める。

<問い合わせ>

宇都宮大学多文化公共圏センター

028-649-5228（平日 10-16 時）

tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

「自主夜間中学について考える研修会」

第 2 回開催案内

「函館、静岡からの実践報告と意見交換」

公立夜間中学の未設置地域を中心に自主夜間中学は多様な学習者に貴重な学びの場を提供しています。しかし、自主夜間中学関係者間の情報・意見交換の機会は限られています。また、社会的認知度がまだまだ低い中で、自主夜間中学の意義や課題を広く社会に発信していく必要があります。このため、自主夜間中学関係者による実践報告を軸とする研修会を定期的を開催していくこととしました。

第 2 回は、函館と静岡からゲストを招いて開催します。

共催：「宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会」、「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」

日時：2023年3月11日（土）17時～18時30分

会場：オンライン（ズーム・ミーティング）

内容：「函館、静岡からの実践報告と意見交換」

菅原暢子（函館遠友塾、スタッフ 国語、英語科）

深山孝之（しずおか自主夜間教室 代表）

定員：200名（先着順）参加費無料

参加申込：下の URL または QR コードから申し込んでください。

<https://us02web.zoom.us/j/82170432006?pwd=RzBjLytodE1kMDdaUnk4d2RUVVlOdz09>

問い合わせ先

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

電話 028-649-5228（平日 10-16 時）

E-mail: tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

